

佐渡金銀山ガイドンス施設（仮称）映像展示 概要

佐渡市世界遺産推進課

○展示構成、展示手法の考え方

最新映像技術を駆使した展示手法の導入

佐渡金銀山に興味を抱き、複雑な金銀生産技術を感覚的に理解し、強い印象をもって現地見学に行きたくなるように、特にコア展示となる映像展示では、佐渡金銀山の概要や金銀生産技術・遺構などの特徴が的確に表現できる、稼働時の様子が容易に想像できる、ワクワク感や迫力が感じられる、各特徴の紹介に相応しい最新映像技術を導入する。

○映像構成計画

シアター1：テーマ「豊穡の島 佐渡」

プロローグとして多くの人が見やすく、かつ、佐渡島・佐渡金銀山を印象付ける迫力あるダイナミックな大型映像で展開。

シアター2：テーマ「西三川の砂金採り「大流し」

大掛かりな土木事業でもあるダイナミックな「大流し」の工程をわかりやすく表現できる、大型映像と地形模型にプロジェクションマッピング映像によりリアルに体感。

シアター3：テーマ「採鉱から小判製造の一貫生産システム」

3面スクリーンを活用し、絵巻、復元実写・CGなど多様な映像を遺構の映像と複合して紹介することで、一貫生産の複雑な生産方法を多角的な視点からわかりやすく紐解き、紹介。

※公開する撮影シーンはこちらでの使用を予定しています。

シアター4：テーマ「機械化による大量生産技術」

現存する遺構の役割・関係性を、位置関係が分かる大型レリーフ模型で表現し、模型にプロジェクションマッピング映像で鉱石の流れを映し出すことで、現地遺構とリンクさせながら稼働時の仕組みをわかりやすく紹介。